

シカゴ・オヘア空港の夏季便数制限

■米FAA、大規模遅延・欠航回避へ

米運輸省と米連邦航空局（FAA）はこのほど、今夏のシカゴ・オヘア国際空港（ORD）での大規模な遅延・欠航を防ぐため、航空会社の運航スケジュールを制限すると発表した。対象期間は5月17日～10月24日。ORDは米国で最も便数の多い空港で、2026年夏季スケジュールのピーク日には3080便超の運航が計画されていたが、FAAは1日当たりの運航便数を2708便に制限する。

ORDでは25年夏季に、到着・出発の定時運航率が60%を下回った。26年夏季のピーク日計画便数は前年夏季比14.9%増で、前年から約

400便増える見通しだった。FAAは過密なスケジュールが遅延拡大につながると判断し、航空会社や空港関係者と協議を重ねた上でスケジュール削減措置を決めた。

ショーン・ダフィー運輸長官は、過剰な運航計画の是正によりニューアーク・リバティー国際空港（EWR）の定時性を改善した実績に触れ、「オヘアでも同じ戦略を適用する」と説明。「処理能力を大きく上回る非現実的なスケジュールを見直すことで、遅延を減らす」などと述べた。

FAAのブライアン・ベッドフォード長官は「航空利用者の安全が最優先

であり、航空会社のスケジュールはシステムが安全に処理できる水準を反映する必要がある」と強調した。今回の制限では、各航空会社の25年夏季に承認されたスケジュールを基準に運航枠を配分する。

ORDではゲート容量の制約に加え、建設工事に伴う誘導路閉鎖も続いており、航空管制への負荷が高まっている。FAAは便数制限に加え、航空管制官の増員と訓練の迅速化、シカゴ周辺の経路・空域の最適化を進める。また、FAA・航空会社・空港が運航情報を共有し、遅延抑制策を協議す「協調的意思決定（CDM）」の機会を増やす。